岩手教区報

第321号
立教182年9月1日
天理教岩手教務支庁
盛岡市馬場町3番40号
TEL 019-622-7962
FAX 019-623-9597

「本当のたすかり」

主事　中田祥浩

7年前のこと。日没後の教会普請現場にて躓いてしまった。運悪く右手を着いた場所に鋭利なトタン板が落ちており、11針を縫う怪我を負った。腫れて痛む右手を見ながら、つくづく自分は足元をよく見ていないと反省させられた。それは単に身体の足元だけでなく、本来大事にせねばならない、身近な大切なものを蔑ろにしていることへの反省であった。

しかし、このような反省は初めてではなかった。怪我の1年前の大教会神殿当番の時、ノートパソコンで用事をしていた私は、印刷のため事務所へ向かった。その際、普通にノートパソコンを閉じて持って行けば良いものを開いたまま、しかも画面を見ながら歩いた。途中の廊下にて、膝の高さほどの障害物があることをすっかり忘れ、それに思いっきり躓いて前方へダイビング。持っていたパソコンを守ろうと反射的に胸から着地したため、鳩尾を打って呼吸不能、肋骨には激痛、筆舌に尽くしがたい惨状に見舞われた。1カ月間、寝返りを打つたびに激痛が走る辛い日々を過ごしながら、つくづく自分は諸々の意味で足元をよく見ていないと反省させられた。ところが情けないことに、次第に痛みが和らぐにつれて反省は薄れ、胸の痛みが全快した頃にはすっかり心から消えていた。「喉元過ぎれば熱さを忘れる」とあるが、まさに諺通りの体たらくだった。

親神様は神意の分からぬ人間を節によって気付かせて下さるが、一度で分からなければ次々とお見せ下さる。右手を11針縫った怪我であるが、傷がかなり深かったため神経に触り、実は未だに小指の外側が麻酔のかかったような、あの独特のサラサラとした痺れが残っている。日常生活には全く影響ない症状だが気にはなる。しかし、有難くもこの痺れを感じるたびに、自分が諸々の意味で足元をよく見ていないことを思い出し、自覚することができる。

教祖は「すっきり救けてもらうよりは、少しぐらい残っている方が、前生のいんねんもよく悟れるし、いつまでも忘れなくて、それが本当のたすかりやで。」（『教祖伝逸話篇』147　本当のたすかり）と仰せられた。私たちは、親神様の親心に支えられながら生かされ、陽気ぐらしへ導かれていると実感させて頂く。その神意に気付き、しっかり受け止め、日々感謝して通らせて頂きたい。100％治ることだけがご守護ではなく、「おしるし」こそ親心であろう。

信仰随想　法楽

前岩手教区長　中田俊次

「お道の盛衰にこもる親心」

本年5月3日、私共の上級、島ヶ原大教会は創立130周年を迎え、記念祭がつとめられた。昨年（平成30年）9月24日には元の親、郡山大教会創立130周年記念祭が執行された。明治21年に2箇所、22年には10箇所の大教会が設立されている。明治20年代の天理教はすばらしい発展をとげた。普通なら教祖がお姿を隠されたなら信者達は悲嘆にくれ、教勢は沈滞すると考えられるのだが、事実は反対だった。明治20年、教祖が御身をお隠しになられた当時、3万か4万の信者数が、明治29年末には313万7千113名となっている（『みちのとも』明治29年12月調査）。9年間に百倍の増加である。明治20年1月には1箇所もなかった教会数も29年迄には1千78箇所設立されている。正に燎原に火を放つ勢いだった。どうしてこんなに発展したのか。天理教史の研究者、故高野友治天理大学教授は次のように述べて居られる。

「一つには、親神様から人をたすける『おさづけ』を戴くようになったこと。一つには、明治21年以来、神道本局部属天理教会として、教会の設置を許され、自由に布教ができるようになったこと。一つには、親神様のはたらきが顕著で、奇瑞奇跡が随所に現れたこと。この奇跡が盛んに行われたということは注目すべきことであった。天理教の大発展もこれによるといっても過言でない。」と指摘され、更に「病人におさづけを取り次ぐと不思議に助かる。お助け人はそれが嬉しくて田畑を耕す事をやめてお助けにかけ回った。信者ができると教会をつくる。その信者がまた布教に出て教会をつくる。働いたら働いただけのものが目の前に稔ってくる。」と著書の中で論じている。

出る杭は打たれる如く、とどまる所の知らぬ本教の驚異的躍進に危機感を抱いた内務省は、明治29年に「訓令」を発布し、厳しい弾圧、取り締まりに出たのである。以来、約20年間布教のできぬまま、どの教会も疲弊困憊の苦難を耐え忍び、中には信仰から離脱する人、また逆に真の信仰を獲得する人など、正に信仰的試練を経て今日のお道がある。

「ようぼく成人講座」開催予定（9月分）

三陸支部　14日（土）13時
吉里吉里分教会［講師 﨑山道範］
東磐支部　15日（日）13時
猿澤分教会　［講師 櫃割由美子］
盛岡支部　16日（月）10時
岩手教務支庁　［講師 堀口教之］

行事予定【9月分】

1日　青年会例会（14時）
2日　主事会（9時）
役員会議（10時）
13日　婦人会例会（10時30分）
14日　女子青年例会（10時）
16日　道の学生ひのきしんDAY
28日　全教一斉にをいがけデー（～30日）

道の教職員の集い

「第40回夏の勉強会」開催さる

道の教職員の集い（門間道明代表世話人）は、8月10日から12日にかけて、教務支庁を会場に、「第40回夏の勉強会」を開催し、児童生徒9人（小学生2人・中学生7人）が参加した。

期間中、子供達は夏休みの学習やてをどり練習などを熱心に取り組んだ。二日間の朝食をみんなで作ったり、手作りの卓球台を作成するなど、ゲーム機なしの生活でも、男女仲良く楽しく遊びをみつけての活動となった。更に庁外学習として、映画「はだしのゲン」を鑑賞するなど、有意義な勉強会となった。

昭和55年「成人塾」として始まった「夏の勉強会」（平成21年に改称）は、今回で40回を数える。その節目に際し、初代代表世話人の小笠原武志先生からこれまでの歩みをお話しいただき、子供達は真剣に聞き入っていた。

今回の開催にあたり、教区の御助力並びに婦人会の炊事ひのきしんに深謝致します。今後も児童生徒ファーストでスタッフ一丸となって取り組んでいきたいと思います。

訃報

第14代岩手教区長
鈴木　眞人
〔享年89歳〕

鈴木眞人先生には、長年に亘り教区の重責をお勤め下さいました。衷心よりお悔やみ申し上げます。

昭和45年1月26日　東陸分教会長
昭和52年1月26日　少年会団長
平成元年7月2日　東磐支部長
平成2年5月26日　磐井分教会長
平成4年7月2日　主事
平成5年7月26日　集会員
平成11年2月2日　一関支部長
平成13年6月26日　岩手教区長
令和元年8月27日　出直

吉田　オリ〔93歳〕
気仙支部・東廣分教会2代会長夫人
令和元年8月7日出直された。

婦人会

「会員決起の集い」開催報告（9月1日）

（日）教務支庁210名（講師　山田はる乃先生）
感話　村松晴美（花巻）今泉邦江（北園）

学生担当委員会

「ワーク&トーク」参加報告

8月29日から30日にかけて、大学生の集い「ワーク&トークin山形」が、山形県舟形若あゆ温泉「あゆっこ村」にて開催され、大学生11人が参加した（岩手1名）。

参加した学生は、これまでの人生をふりかえるワークと、松村孝吉本部学生担当委員長の講話を聞いて、今後人だすけの決意表明をするなどして、有意義な2日間を過ごした。

「道の学生ひのきしんDAY」【9月16日】

岩手教区学生会は、左記の通り「道の学生ひのきしんDAY」を実施します。

同じ世代の仲間と共に汗を流し、ひのきしんの大切さを体感してほしいと思います。高野委員長もおぢばから駆けつける予定ですので、奮って参加下さい。

記

日　時　9月16日（月）10時～15時
集　合　教務支庁
内　容　中津川河川敷ゴミ拾い
服　装　長袖、長ズボン、運動靴

新任教会長紹介

東山田分教会
〔城山大・三陸支部〕
五日市　正道
昭和46年1月18日生

前任者五日市イサホ氏の辞職に伴い、8代会長としてお許しを戴いた（8月26日）。就任奉告祭は令和2年2月16日。